

飼料用^{もみ}米粉はブロイラー飼料中のトウモロコシと100%代替できる

ブロイラーの後期飼料中のトウモロコシを飼料用米粉で100%代替しても生産性や産肉性に悪影響はない。飼料用米の単価によっては飼料費の節減により低コストで鶏肉を生産することが可能である。

内 容

ブロイラー（チャンキー）に全粒粉の飼料用米を自家配合によりトウモロコシと30%、50%、75%及び100%代替した飼料（全量中飼料用米割合はそれぞれ19.5%、32.5%、48.8%及び65.0%）を給与し、生産性及び産肉性を比較した。

試験区は30%区、50%区、75%区、100%区及び対照区の5区分を設け、ブロイラー200羽を各区40羽ずつに分けてウィンドウレス鶏舎で7週齢まで飼育した。飼料用米の給与期間は3～7週齢（28日間）とした。

その結果、いずれの区においても嗜好性に問題はなく、健康状態は良好であった。雌雄平均体重は30%区が対照区に対して有意に重かった（表）。飼料要求率は30%区が最も優れ、飼料用米の代替割合が多いほど劣る傾向が見られた（表）。正肉歩留まりは各区の間に有意差は認められず、すべての試験区の筋胃割合が対照区に対して有意に高

かった（表）。もも肉中のモノ不飽和脂肪酸割合は、各区間に有意差は認められなかった（表）。もも肉中の総アミノ酸含量は30%区が対照区に対して有意に多かった（表）。1羽当たり飼料費及び正肉100g当たり飼料費は、すべての試験区が対照区を下回り、試験区間では飼料用米の給与割合が多いほど少なくなる傾向であった。

以上のことから、ブロイラーでは肥育後期の飼料中のトウモロコシを100%まで全粒米粉で代替しても生産性や肉質に悪影響を及ぼさないと考えられた。

今後の方針

飼料用米を初生時から給与して、長期間の飼料用米給与がブロイラーに及ぼす影響を調査し、飼料用米の多給技術を確立する。

龍田 健（家畜部）

（問い合わせ先 電話：0790-47-2429）

表 各区の成績比較

項 目	30%区	50%区	75%区	100%区	対照区
雌雄平均体重(g)	3,674 ^a	3,659 ^{ab}	3,666 ^{ab}	3,655 ^{ab}	3,579 ^b
飼料要求率	1.98	2.04	2.07	2.13	2.05
正肉歩留まり(%)	44.0	43.8	44.0	43.4	43.2
筋胃割合(%)	1.23 ^c	1.35 ^b	1.43 ^{ab}	1.50 ^a	1.02 ^d
モノ不飽和脂肪酸割合(%)	41.6	43.0	44.2	44.6	42.9
総アミノ酸含量(μmol/g)	56.1 ^a	53.4 ^{ab}	50.9 ^{ab}	53.9 ^{ab}	50.3 ^b
1羽当たり飼料費(円)	353	351	340	333	374
正肉100g当たり飼料費(円)	21.9	21.9	21.1	21.1	24.0

a, b, c, d: 異符号間に有意差あり(p<0.05)